

令和4年度 上田市立塩尻小学校 学校自己評価シート（2月最終報告）

学校教育目標	めざす子どもの姿（中期的目標）	総合評価			
(1)思いやりのある子供 (やさしさ) (2)じょうぶな子供 (たくましさ) (3)よく考える子供 (かしこさ) (4)最後までやりぬく 子供 (ねばり強さ)	(1) 人の気持ちがわかり、思いやりのある言動がとれる子供 (2) 生活リズムを整え、病気やけがに気をつけて生活できる子供 (3) 進んで学習に取り組み、自分の考えを表現しようとする子供 (4) 本気で取り組み、粘り強くやり抜く子供	○コロナ禍ではあるが、活動内容や行い方を工夫して、友や地域の方々と関わり合う活動の幅を広げることができ、子ども達の笑顔が増え、積極的に活動に取り組む姿がたくさん見られた。 ○学校生活に満足できていない児童もみられる。アフターコロナを見据えて、子ども達が友や地域の方々と関わり合う活動を位置付けていき、思いやりの心を育てていきたい。			
	今年度の重点目標		成果と課題	評価	改善策・向上策
	1	支え合う学級づくり	・粘り強い児童会活動で校内では気持ちよい挨拶を交わしているが、地域での挨拶は課題である。 ・1回目のQ-U検査では、課題把握のための職員研修を実施した。情報共有ができたことは、職員全体の児童理解が深まることにつながった。結果を生かし学級経営の改善にさらにつなげていく必要がある。	B	道徳や日常生活の中で、挨拶の良さや気持ちの良い挨拶について考えたりする機会を大切にする。先生や友達だけでなく、地域の方やお客さんにも元気にあいさつできる塩尻っ子を目指していく。
	2	学び合う授業づくり	・ねらいの提示や終末の振り返りが定着してきた。また、高学年の学活や総合的な学習の時間では、活動の計画、実施、振り返り、修正のサイクルを繰り返してきてきたことで、教師が指示しなくても、考えて動き出せる姿が見られるようになってきた。じっくり考えたり、友の考えから深めたりしていく力が課題である。	A	学びの姿勢、特に相手の話をしっかり聞く姿勢をまず大事に育てていく。学習活動後に児童が見返しをしっかりと行い、課題を見つけ改善策を考える学びを大切に位置付けていく。
3	高め合う活動づくり	・塩尻小フェスティバルでは、異学年でチームを編成し、活動をともしることによって、下級生を支える自覚や上級生から学ぶよい機会となった。学校行事では、全校で集まれないことも多く、下級生に伝統を引き継いでいくことが課題である。 ・クラブ活動や生活科の自然体験活動などで、昨年度より、地域の方に関わっていただき、活動を深めることができた。持続可能な関わり合いにしていこうため、場や活動をさらに工夫していく必要がある。	B	・コロナ禍で培ってきたことを生かし、全校で学び合う喜びを味わえるような活動の場や方法を工夫していく。 ・地域の方々に学校へ足を運んでもらえるように少しずつ機会を取り戻していくことで、一緒に学校づくりをしていただけるような関係を築いていく。	

領域	重点	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
	支え合う学級	あいさつの充実	児童会の挨拶運動を中心に、来校者や地域の中でも進んであいさつする子供を増やせたか。	児童会によるあいさつ運動を継続してきた。校内では多くの児童が元気に挨拶を交わすことができた。誰にでも挨拶がきもちよくできる児童にしていくことが課題である。	B	各クラスで挨拶のよさや気持ちの良い挨拶について振り返ったり考えたりする機会を大切にする。児童会活動、PTAとも連携していく。

学校教育		認め合う関係づくり	自分と友達との違いや良さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てるために、力を合わせて取り組んだり、課題を解決したりする経験を増やす活動場面や場づくりを進めたりすることができたか。	年間を通して協働的な学級活動を行ってきた。高学年では、児童同士で振り返りながら改善につなげていく話し合い活動が活発にできるようになってきた。	A	児童が課題に直面する場面を仕組み、友と協働しながらよりよい方向を考えていく学びを大切にする。
		児童把握と個に応じた支援	Q-U 検査やアンケートで児童の状況や実態を把握し、必要に応じて個別の指導計画を作成しながら全職員で連携して支援にあたることができたか。	児童の個別指導計画を立てて、毎月教務会や職員会で児童の様子を確認し支援を進めた。学校生活に不満を持つ児童への支援はさらに必要である。	B	毎週の職員連絡会でも、児童の様子を職員で共有しながら、支援の方向を相談し進めていく。
		共に学びあうための構えをつくる	仲間と共に深める学習に向けて、はっきり話す、話し手を見て最後まで話を聞く姿勢を大切に指導することができたか。	1, 2年生では、支援員をTTで配置し、聞く姿勢や発言の仕方、ノートの手書き方など、個別指導に取り組んだ。全体的にはよく話を聞き、落ち着いて学習に取り組むことができています。	A	聞き方、伝え方を大切にしていく。自分の考えを安心して言える学級づくりを大切にしていく。
	学び合う授業	自律して学ぶ力づくり	「つむぐ」等を活用し家庭学習の定着を図り、発達段階に応じて自主学習に取り組めるよう指導支援できたか。	昼休みや清掃後に「つむぐ」の記入時間を確保し、低学年では、担任が毎日目を通すようにした。宿題を忘れてくる児童は少ないが、自主学習の取り組みは不十分さが感じられる。	B	自主学習の取り組み方については、研究を進めていく。Chromebookの活用も学年に応じて導入していく。
		「できた」「分かった」と実感できる授業	子供たちが自ら追究していくためのねらいや学習課題、ねらいにそった見返しや定着を設定できたか。	この時間に何を学ぶのか板書し、終末では、その時間のねらいを意識した教師の問い返しや、振り返りを大切にしました。課題が明確になり、次の目標を持つことにつながった。	A	見返しでは、児童が自己の学びの深まりが実感できるように、発問や振り返り方の研究を進める。
		自主性が伸びる活動づくり	個に応じた適切なめあてを設定し、目標に向けて粘り強く取り組む姿勢を指導・支援することができたか。	高学年では、学級や個人目標を、定期的に振り返り、成果や課題を見つけ、改善策を話し合う時間が位置付いている学級も見られる。じっくり話し合う時間を確保する工夫が必要である。	B	年間を見通して、メリハリをつけた計画を立てて取り組むことを大切にする。
	高め合う活動	児童による協働の学び	異学年との交流の場を設定し、互いの良さ、協働することのよさを実感できる活動づくりができたか。	連学年やなかよし学級で、学校行事に取り組んできた。春の交通安全教室やホタル幼虫採集、塩尻小フェスティバルなどでは、異学年でグループになり、交流を楽しむことができた。	A	連学年のつながりを強くし、年間を通して計画し取り組んでいく。
		地域との学び	地域資源(人材・題材等)を活かして、クラブ活動・生活科・総合的な学習を構想し取り組むことができたか。	クラブ活動では、4名の地域講師を始め、情報処理センターの方にも協力いただき、充実した活動ができた。1, 2年生では、地域の方々に様々な協力をいただき、ゆうすげの里で活発な自然体験学習ができた。	B	幅広い地域人材や題材を発掘するため、地域の支援コーディネーターと連携していく。
		情報の発信	学校、学年、学級だより、学校ホームページ等を通して、学校での児童の学びを保護者や地域へ発信することができたか。	学級だよりは隔週、学校だよりは月1回発行し、HPは記事をはほぼ毎週更新した。学校長の願いや、学校行事での子ども達の様子が定期的に発信できた。	A	HPへの掲載をできるだけこまめに行いタイムリーに発信していく。
学校運営	PTA や地域の方々との連携	PTA や地域の方々との連携し、学校行事等の様々な活動を充実させることができたか。	昨年度の実績を生かし、学校行事ではコロナ対策等でPTAと協働体制をとることができた。参観日や学校行事に学校運営委員さんをお呼びできた。	A	来年度地域の方にも、学校を見ていただけるよう体制を整える。学校行事はPTAとの連携を継続していく。	

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できた D・・・達成できなかった